

学校教育目標	何事にも全力で取り組む、思いやりのある優しい生徒の育成 ～「感じ取る力」「考える力」「行動する力」の育成～
《本年度の重点目標》	
《重点目標1》	・基礎基本の確実な定着、自ら学び、自ら考える力を育てる「学習指導」の推進
《重点目標2》	・将来、より豊かな生活を送るための「体力向上」の推進
《重点目標3》	・「心の教育」の充実をめざす「道徳教育」と「人権教育」の推進

◆記入にあたっての留意事項

- 取組については、各学校の重点目標達成のための方策に応じて設定すること。
- 「取組」「評価項目」「評価項目についての重点的取組」を設定する際には、次の6点をいずれかに必ず位置づけること。
 - ①学力向上に関する取組
 - ②体力向上に関する取組
 - ③心の育ちに関する取組
 - ④いじめ問題解決に関する取組
 - ⑤特別支援教育推進に関する取組
 - ⑥あいさつ日本一に関する取組
- 小・中学校においては、①学力向上に関する取組、②体力向上に関する取組、③心の育ちに関する取組の部分の記述について、スクールプランと整合性を取る。
- 評価の例 A…目標を十分に達成できた B…目標をほぼ達成できた C…あと少しで目標が達成できた D…目標達成までいかなかった

取組	評価項目	評価項目についての重点的取組	評価	○成果と◆次年度の改善点
関学 する 力 向 取 上 組 に	【授業改善①】 ◇<北九学調(49)>「授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか」について、肯定的な回答をした生徒の割合[70%以上] 【授業改善②】 ◇<北九学調(54)>「授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか」について、肯定的な回答をした生徒の割合[80%以上] 【授業改善③】 ◇<全学調(18)>「昼休みや放課後、本を読んだり、借りたりするために、学校図書館にどれくらい行きますか」月に1～3回程度行く生徒の割合[35%以上]※年度末に学校アンケートにて調査する。 【授業改善④】 ◇<北九学調(21)>「自分で計画を立てて勉強していますか」について、肯定的な回答をした生徒の割合[60%以上]	○どの教科においても一単元の中に必ず「話し合う活動」を取り入れ、自分の考えをもつとともにお互いの考えを出し合う場を設定し、生徒のコミュニケーション能力を高める。 ○学力向上推進教員と連携して、授業力の向上を図る。特に、導入における工夫で生徒の興味・関心を高める。 ○わかる授業づくりのための「5つのポイント」を意識した授業づくりを推進する。授業改善シートの活用で、授業の振り返りを行う。 ○年間を通して「朝の読書」を推進する。 ○授業後、次の授業の職員と入れ替わるまで待機し、チャイム席を守る、落ち着いた態度で学習できるように指導する。 ○教室、廊下などに工夫をすることで、学習環境を整備する。	B	【授業改善①】 ○質問紙49で肯定的な回答をした生徒の割合が82.8%と達成目標を上まわった。 ○めあての提示等が92.4%とほぼ確実に設定され、生徒が見通しをもって主体的に学習活動を展開することができた。 ◆次年度は、授業規律のさらなる定着と、話し合い活動の充実を図る。 【授業改善②】 ◆質問紙54で肯定的な回答をした生徒の割合が74.2%で達成目標に到達しなかった。 次年度は、「まとも」や「振り返り」が徹底できるよう指導し全校で行えるようにする。 【授業改善③】 ○「読書は好きですか」という問いに対し、肯定的な回答をした生徒は74.3%で、読書する習慣については、68%の生徒が肯定的な回答であった。 ◆図書館に行く生徒の割合は、約10%と低く、図書館の活用も含め工夫していく必要がある。 【授業改善④】 ◆質問紙21で肯定的な回答をした生徒の割合が48%で達成目標に到達しなかった。 学習計画表の工夫や自学ノートの活用により計画的な学習ができるよう支援していく。
	【補充学習】 ◇<北九学調(33)>「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、わかるまで教えてくれますか」について、肯定的な回答をした生徒の割合[80%以上]	○基礎的・基本的な学習が定着していない生徒(極低学力生徒)への学習支援として放課後教室を実施する。 ○個別学習スペースの確保するなどや生徒が質問に行きやすい環境づくりを推進する。	A	【補充学習】 ○基礎的・基本的な内容の定着については、全職員協力し放課後教室、試験前質問教室を充実させ実施した。 ◆質問紙33で肯定的な回答をした生徒の割合が68%で達成目標に到達しなかった。 実施方法や教材の工夫、時間設定等改善していく必要がある。
	【家庭学習】 ◇<北九学調(14)>「学校の授業時間以外に1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか」について、「1時間以上している」と回答した生徒の割合[80%以上]	○学期に1回、生徒アンケート・保護者アンケートを実施し、家庭学習の状況を的確に把握するよう努める。 ○自学自習ノート「Kノート」の定着のために担任による毎日の点検活動を行う。	B	【家庭学習】 ○学習計画表の工夫や自学ノートの活用、家庭学習コンクール等を行うことにより、生徒の家庭学習が定着つつある。 ◆質問紙14で1時間以上している回答した生徒の割合が60%で、達成目標に到達しなかった。 次年度へ向けて定着していない児童へ個別の支援を推進していく。
関体 する 力 向 取 上 組 に	【授業改善】 ◇<全国体調(16)>「体育の授業は楽しい」について肯定的に回答する生徒の割合[90%以上] ◇<全国体調>にて「立ち幅跳び」を全国平均より上回る	○体育の準備運動では、体力向上プログラムを活用した運動を取り入れる。また、30分以上の運動時間を確保する。 ○体を動かす楽しさや喜びが実感できるようにするとともに成就感(達成感)を得られるような授業展開を工夫する。	A	【授業改善】 ○めあてやまどめが確実に設定され、運動量の確保も図られた。できるようになったことや達成の喜びがどの児童にも得られるように、授業改善をより一層進めていく必要がある。 ○立ち幅跳びについては、男女とも全国平均を上回り、目標を達成した。 ◆質問紙16で肯定的な回答をした生徒の割合が80%で達成目標に到達しなかった。 ◆次年度は、校内研修の充実を図る。
	【運動習慣】 ◇<全国体調>にて「長座体前屈」で全国平均を上回る。 ◇<全国体調(1)>「運動やスポーツが好き」について肯定的に回答する生徒の割合[90%以上]	○一校一取組として、年間を通して5校前時に5分間のストレッチ運動を実施する。また、体を休めるための睡眠タイムを実施する。 ○新体力テストの分析結果を受け、プログラムを変更するなど、適宜対応策を練り、補充を行う。 ○各種の運動結果を掲示することで意欲の向上を図る。	A	【運動習慣】 ○一校一取組のストレッチタイムを年間実施し、柔軟性が全国平均より上回った。 ○多くの児童が体育以外でも運動やスポーツを行うようになり、体力が向上し始めた。 ◆次年度も継続するとともに、生徒にやる気を出させる指導の工夫を行う。
心 の 育 ち に 関 する 取 組	【授業改善①(道徳)】 ◇<北九学調(9)>「将来の夢や目標を持っていますか」について、肯定的な回答をした生徒の割合[80%以上] ◇<学校アンケート>「場に応じた気持ちのよいあいさつが進んでいく」について、肯定的な回答をした生徒割合[90%以上]	○年間35回の道徳授業を確実に行う。道徳教材の内容項目に「夢・希望」「思いやり」「感謝の気持ち」などの項目を重点的に取り入れ、将来に向けての夢や目標を持つことができる生徒を育成する。 ○体験活動では、上記の内容を目的に入れた体験活動を実施し、年間を通して道徳心を向上させる。 ○自主的にあいさつができる生徒を育成するために集会や学活、部活動などであいさつの大切さについての指導を徹底する。	A	【授業改善①(道徳)】 ○質問紙9で肯定的な回答した生徒の割合が85%で、目標を達成した。 ○多くの児童が将来の夢や目標をもつようになり、自己肯定感が高まってきている。 ◆「気持ちのよい挨拶」については、肯定的な回答をした生徒の割合が80%で達成目標に到達しなかった。 引き続き、職員、家庭、地域と連携し、指導を続ける必要がある。
	【授業改善②(特別活動)】 ◇<北九学調(6)>「自分にはよいところがあると思いますか」について、肯定的な回答をした生徒の割合[80%]	○各学級で、自他のよいところを見つけるなど、お互いを認め合う活動を積極的に取り入れる。また、あわせていじめ防止にも繋げる活動を推進する。 ○生徒会活動の中に自尊感情を高める活動を取り入れる。	B	【授業改善②(特別活動)】 ○質問紙6で肯定的な回答をした生徒の割合が66%で達成目標に到達しなかった。 ◆次年度も「友達のよいところみつつけ」等、互いを認め合い、褒め合う取組を継続するとともに、一人一人が輝ける場づくりを積極的に行っていく。 ○「いじめアンケート」の毎月実施や「いきいき生活アンケート」を行い必要に応じた面談や学期に1度の教育相談を行い生徒と信頼関係の構築を行う。 ○担任だけでなく、養護教諭やSCなどと連携を図り、心の安定を図った。 ◆SCの来校日が限られているので、相談日の設定が難しい場合がある。相談体制の再検討を行う。 ○関係機関との連携を推進し、特別な支援を必要とする児童に対する支援体制を整えることができ、児童が落ちついて過ごし、学習することができた。 ◆児童のニーズに応じて、よりよい支援の在り方や専門機関との連携ができるよう検討していきたい。
学 校 組 織 と 研 修 に	【授業改善①】 ◇<学校アンケート>「授業改善に向けて日々の授業改善に取り組んだ」について肯定的に回答した教員の割合[90%以上] ◇<学校アンケート>「授業改善シートを活用した」について肯定的に回答した教員の割合[80%以上]	○学力向上推進教員のモデル授業をもとに、全職員で研修を行いよい授業のイメージを共有し、授業力の向上に努める。 ○公開授業を年3回実施し、全職員が参観するとともに、WC型の研修会の実施する。	A	○学力向上推進教員によるタイムマネジメントやめあての設定の仕方等の研修を行った。職員の授業改革の意識の向上が見られ、積極的に推進教員に参観を要請したり質問をしたりする姿が見られるようになった。職員のスクールプランの振り返りでも授業力の向上に努めたと回答する教員が100%であった。 ◆授業改善シートを活用した授業づくりや振り返りを行ったと回答した職員は全体の59%にとどまっている。学力向上推進教員から授業参観の視点などを整理してもらい来年度は互見授業の仕方を実践的な形で研修を企画し、そこで学んだことが全職員が見ることができるような取り組みをし、改善シートの活用をそこで行う。